

中小企業共通 EDI 標準仕様書
<付属書>
XML 実装ガイドライン
ver.4_r0_20220901

特定非営利活動法人
IT コーディネータ協会
つなぐ IT 推進委員会
共通 EDI 標準部会

改定履歴

	バージョン	改定日	改定内容
1	<付属書>XML 実装 ガイドライン ver.4_r0	2022/ 9 /1	中小企業共通 EDI 標準仕様書 ver.4_draft バージョンアップと連携 し、新規策定

目次

1. はじめに	1
2. 共通 EDI 標準メッセージの XML フレームワーク	4
2. 1. ASBIE/ABIE/BBIE の構造化情報項目セット	4
2. 2. 共通 EDI_BIE 表の EDI 文書表現.....	6
3. XML バインディングと実装	7
3. 1. 国連 CEFACT_XML メッセージの構築方法	7
3. 1. 1. 情報項目のバインディング	7
3. 1. 2. UDT、QDT のインポート	7
3. 2. 中小企業共通 EDI 標準の XML メッセージの構築方法	8
3. 3. 共通 EDI_XML バインディング手順	8
3. 4. XML スキーマの生成例	11
3. 5. XML インスタンスの生成.....	14
4. XML インスタンスのサンプルデータ	15
●注文書サンプル帳票	15
●請求書サンプル帳票	15
●サンプル注文書のマッピング	16
●サンプル請求書のマッピング	22

1. はじめに

この共通 EDI_XML 実装ガイドラインは業務アプリベンダが XML による EDI データ交換仕様の実装をサポートするために策定された。最初に本ガイドライン作成に至った経緯を紹介する。

中小企業共通 EDI 標準は中小企業取引デジタル化の実現を目指して策定された。これまでに実用化されている EDI 標準は、その利用に送信者と受信者による EDI 連携のための多額の投資が必要となるため中小企業に普及することができなかった。

中小企業共通 EDI は送信者と受信者の負担を極小化し、FAX 利用と同程度の費用で EDI 利用を可能とするサービス提供を目指して開発された。これは近年急速に普及したクラウド技術を活用することにより実現した。

中小企業共通 EDI は次のような構成で EDI サービスを提供している。

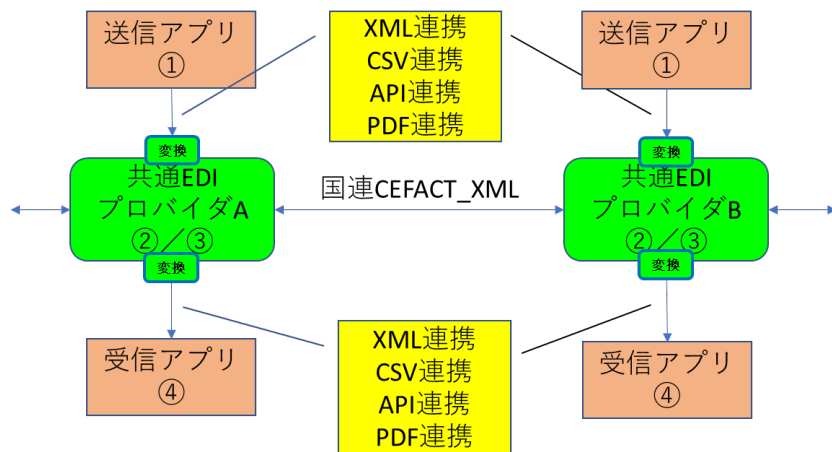


図 1-1 中小企業共通 EDI の全体構成

中小企業共通 EDI は次の 2 つの方式で送信アプリと受信アプリ間を接続している。

【3 者連携方式】送信アプリ①→共通 EDI プロバイダ②または③→受信アプリ④

【4 者連携方式】送信アプリ①→共通 EDI プロバイダ A②→共通 EDI プロバイダ B③
→受信アプリ④（4 コーナーモデル）

送信アプリと受信アプリは共通 EDI プロバイダを経由して連携する方式としており、共通 EDI プロバイダとユーザー業務アプリ間は CSV 連携、API 連携、XML 連携、PDF 連携で接続方法を規定している。これはユーザーニーズに応じて連携方式を選択できるように配慮したためである。

但し共通 EDI プロバイダは連携方式を選択して提供することとしているので、業務アプリは共通 EDI プロバイダが提供する連携サービスを選択して連携することが求められている。

中小企業共通 EDI は中小企業に広く普及しているパッケージ業務アプリを利用して EDI 取引への移行を簡易に実現するために、パッケージアプリが一般的に備えている CSV エクスポート、インポート機能を活用することにした。既存の業務アプリが備えていない EDI 通信機能やフォーマット変換機能等は共通 EDI プロバイダが提供することにより、既存 EDI の高額投資負担がユーザーに生じないようにしている。

しかし CSV 連携では高度な EDI 機能の利用ができないので、技術力のあるユーザーには XML 連携や API 連携による高度な EDI 利用ができるようにした。

XML 連携はこれまで「4 者連携方式」に示す共通 EDI プロバイダ間連携 (②⇔③) に利用することを主目的として標準化されている。共通 EDI プロバイダは今後多くのプロバイダ事業者によりサービスが提供されると考えられるが、この状況で共通 EDI プロバイダ間の EDI データ交換ができないと「多プロバイダ問題」が発生する。この問題を避けるためにユーザーは一つの共通 EDI プロバイダと接続すれば、すべての共通 EDI ユーザーと連携できる「4 社連携方式」への対応を共通 EDI プロバイダに対する必須の要件として規定している。この方式は電子メールの連携方式を EDI に適用した連携方式である。

業務アプリ間で EDI データ交換するためには、送信業務アプリ固有のデータ仕様を共通データフォーマットに変換し、受信アプリがインポートできる仕様に再変換してデータを受信者に引き渡す手順をとる。共通 EDI プロバイダ間で交換する EDI データとして国連 CEFAC XML フォーマットの利用を共通 EDI 標準の必須要件として規定した。

標準 ver.3 では共通 EDI プロバイダと業務アプリ間の XML 連携については、その詳細の規定は標準には組み込んでおらず、将来開発される「レベル 2 業務アプリ」への標準実装を要請するにとどめていた。

ここへきて業務アプリに XML 実装ニーズが顕在化してきたので、標準 ver.4 では本ガイドラインを策定することとした。

業務アプリに XML 連携を実装すると、次のようなメリットが得られる。

●業務アプリの XML 連携実装のメリット

1. 高度な EDI 連携機能が利用できるようになる。
2. すべての共通 EDI プロバイダとの接続が可能になる
3. XML 添付 PDF アプリへ組込むことができる

XML 添付 PDF アプリは電帳法の対応要件を満たしている

XML メッセージを利用すれば中小企業共通 EDI メッセージの「任意」情報項目に組み込まれた高度なユーザーサービス機能の利用が容易にできるようになる。

またすべての共通 EDI プロバイダは共通 EDI プロバイダ間連携のための XML 連携機能を標準として備えているので、XML 連携アプリはすべての共通 EDI プロバイダとの連携が可能になる。ただし共通 EDI プロバイダと業務アプリ間の通信方式については当事者

間の協議に任されている。

新しく登場してきた XML 添付 PDF アプリは欧州ではすでに実用化されている。CSV 連携を PDF 連携に置換えれば電帳法の要件にも対応できるので、ユーザーにとっての利便性が向上する。

API 連携が業務アプリにとってのもう一つの選択肢である。共通 EDI プロバイダや業務アプリは、それぞれ API 連携仕様を公開している製品が多くなっており、両者間の協議で連携仕様を決定することができる。

ただし API 連携は特定のプロバイダごとに固有の連携仕様を実装する方式なので特注業務アプリでは問題にならないが、ユーザーへ販売されるパッケージ業務アプリの場合には広く普及させるには不便である。

2. 共通 EDI 標準メッセージの XML フレームワーク

中小企業共通 EDI メッセージは国連 CEFAC XML フォーマット規定に基づき策定されている。メッセージ仕様は中小企業共通 EDI 標準仕様書<付表 2> 中小企業共通 EDI メッセージ辞書・BIE 表（以下、共通 EDI_BIE 表という）が EXCEL 表として提供されている。この EXCEL 表から実装可能な XML スキーマを作成する手順をとる。

2. 1. ASBIE/ABIE/BBIE の構造化情報項目セット

共通 EDI_BIE 表は次の情報項目セットで構造化された構成となっている。

- ・ BBIE (Basic Business Information Entity：基本ビジネス情報項目)
- ・ ABIE (Aggregate Business Information Entity：集約ビジネス情報項目)
- ・ ASBIE (Associate Business Information Entity：関連ビジネス情報項目)

これらの区分は共通 EDI_BIE 表の「情報種」の欄に示されている。

BBIE はデータを格納する基本の情報項目である。BBIE は取引機能要素別にグループ化され ABIE のもとにまとめられている。この取引機能要素 BBIE のセットはクラスと呼ばれ XML スキーマの共通基本単位となる。ABIE クラスは共通構造化されているので、上位の XML クラスと関連付けないとユニークにならない。この関連付けに利用する情報項目が ASBIE である。これらの情報項目を総称して BIE という。

ABIE クラスは取引機能要素に構造化して提供されているので、ベンダーは必要な ABIE クラスを選択して実装することになる。ABIE クラスを自由に選択することは可能であるが、バラバラに実装すると相互連携性が保てなくなるので、これを避けるために中小企業共通 EDI は業界別やユーザーニーズなどの用途別区分を設けている。中小企業共通 EDI 標準 ver.4 では個社固有のメッセージ展開は相互連携性確保の観点から原則として禁止とし、これらの用途別区分を選択して実装することを推奨している。

上記の詳細な解説は国連 CEFAC 日本委員会（一社）サプライチェーン情報基盤研究会（SIPS）より提供されているので参照されたい。

http://www.caos-a.co.jp/SIPS/documents/ccl_overview.pdf

中小企業共通 EDI 標準 ver.3 では中小企業の汎用的な必須情報項目と利用任意の任意情報項目に 2 分して構成されていた。しかし任意情報項目には汎用的なユーザー便利機能と中小業界固有の情報項目が混在して組み込まれていたため、任意情報項目のマッピング作業が分かりにくくなっていた。この問題を解決するために、標準 ver.4 では汎用的に利用する「共通コア」情報項目と「中小業界固有」情報項目に構造化して識別するフレームに組み替え、マッピング作業を容易に行えるようにした。

共通 EDI_BIE 表には多様な取引機能要素が ABIE クラスとして組み込まれている。こ

これらの ABIE 機能要素クラスはすべての取引で利用する「共通コア」機能要素クラスと特定の業界取引に利用される「業界固有」機能要素クラスに識別している。

「業界固有」機能要素クラスは「共通コア」機能要素クラスのオプション要素の位置づけであり、選択して組み込むことを可能とする構成としている。

中小企業共通 EDI 標準のメッセージ構成と、機能要素クラスの実装フレームワークを示す。

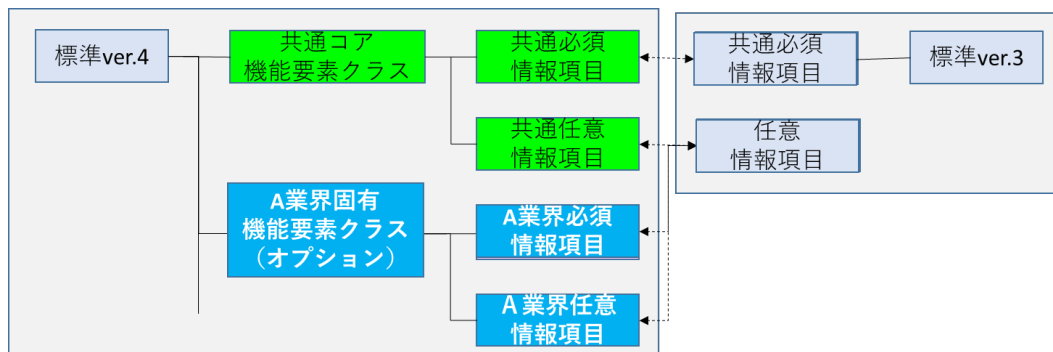


図 2-1 標準 ver.4 のメッセージ構成

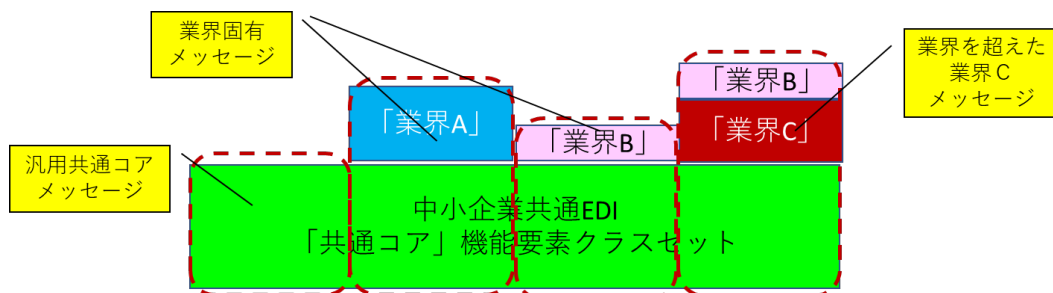


図 2-2 標準 ver.4 の実装フレームワーク

上図に示す通り中小企業共通 EDI メッセージの構成は汎用的な中小取引共通コアメッセージと中小業界別取引メッセージのいずれにも対応可能なフレームワークとなっている。「業界 C」で例示したように異なる「業界固有」要素を組み込むこともできる。「業界 C」の企業はこのメッセージを利用すれば「業界 B」の企業と業界を超えた連携が可能になる。

今後、他の中小企業業界の EDI 移行には各中小業界の固有情報項目を標準化して追加することが必要になると予想される。各中小業界内の標準仕様について合意が成立すれば今後のバージョンアップで中小企業共通 EDI への組込の要否を検討することとしたい。

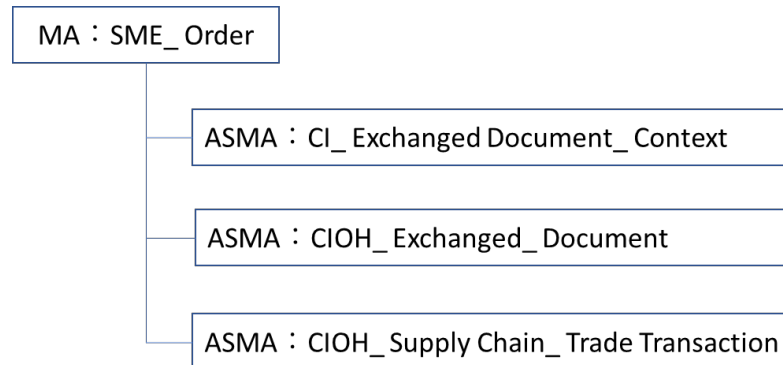
このような構成とすれば、新しい中小業界 EDI 仕様を共通 EDI 標準に組み込んでも既存の情報項目を組み込んだ業務アプリには影響しない。また業界を超えた EDI 仕様は肥大化して使えなくなるという問題を解消することができる。

2. 2. 共通 EDI_BIE 表の EDI 文書表現

EDI 文書の共通 EDI_BIE 表は取引プロセスごとに提供されている。EDI 文書は共通 EDI_BIE 表では MA (Message Assembly) として表され、その下位に ASMA が下図のように配置されている。

上述した ASBIE/ABIE/BBIE の構造化セットは各 ASMA の下位に配置されている。

注文情報 (SME_Order) の EDI 文書構成を次に例示する。



この共通 EDI_BIE 表で示された EDI 文書の XML バインディング方法詳細は SIPS の下記サイト資料 (29 ページ～) で解説されているので参照されたい。

<http://www.caos-a.co.jp/SIPS/itctools/html/guidelines/guidebook.pdf>

3. XML バインディングと実装

3. 1. 国連 CEFACT_XML メッセージの構築方法

3. 1. 1. 情報項目のバインディング

国連 CEFACT はメッセージ辞書・BIE 表を XML メッセージにバインディングして XML スキーマを生成する方法として次の 3 つの手順を NDR に規定している。

(1) 国連 CEFACT XML 標準メッセージ

=>メッセージのトップレベルの ABIE (すなわち ASMA) のみ指定して、あとは Reusable ABIE をすべてインポートする方法 (国連 CEFACT ホームページに XML スキーマとして掲載)

(2) RDM (参照データモデル) メッセージ

=>使用する ABIE をあつめてモジュール化し (コンテキスト化と言う)、コンテキスト化 Reusable ABIE をインポートする方法 (国連 CEFACT ホームページの Streamed Presentation から公開されている)

(3) 文書個別メッセージ

=>メッセージ毎に使用する BIE を定義して作る XML メッセージ (SIPS 業界横断 EDI 仕様・中小企業共通 EDI 仕様として使用)

3. 1. 2. UDT、QDT のインポート

前項は情報項目 (BIE) の組み込み方についての規定であるが、さらに UDT、QDT をインポートして XML スキーマに組み込む方式としている。

UDT、QDT の意味を次に示す。

(1) UDT (Unqualified Data Type) :

CCTS (コアコンポーネント技術仕様書) に定義された全てのデータ型を含んだ XML スキーマ。通常使われる UDT は次の通り。

Amount. Type: 金額

Date Time. Type: 日時

Code. Type: コード

Rate. Type: 率

Quantity. Type: 数量

Text. Type: 文字列

Identifier. Type: 識別子

Binary Object. Type: バイナリ

UDT は次の URL からインポートできる。

```
<xsd:import
namespace="urn:un:unece:uncefact:data:standard:UnqualifiedDataType:30"
schemaLocation="UnqualifiedDataType_30p0.xsd"/>
```

(2) QDT (Qualified Data Type) :

UDTを特定の制限を付けて使う場合にデータ型に修飾子を付けて定義する。例えば、UDTのCodeに修飾子CurrencyをつけるとCurrency_Code.Typeとなり、通貨コードを規定することになる。

QDTは次のURLからインポートできる。

```
<xsd:import
namespace="urn:un:unece:uncefact:data:Standard:QualifiedDataType:30"
schemaLocation="QualifiedDataType_30p0.xsd"/>
```

(3) ID 表とコード表

QDTで参照するID表及びコード表についてもインポートして組込める構成となっている。最新版のID表及びコード表は、国連CEFACTから年2回発行されるXML Schemaの"Codelist"ファイルから選択して使用できる。

公開されている国連CEFACT XMLスキーマは、2022年A版の場合、次のURLからZipファイルをダウンロードすることができる。

<https://unece.org/sites/default/files/2022-06/XMLSchemas-D22A.zip>

3. 2. 中小企業共通EDI標準のXMLメッセージの構築方法

中小企業共通EDI標準は情報項目の組込みについては3. 1. 1. (3)方式を採用している。

UDT、QDTについてはUDTのみをインポートし、QDTについては当面空欄で運用する。

コード表については日本国内のコード表整合化の動きを見極めることとし、当面はインポートせず、コード値のバリデーションは業務アプリが実施することとした。

3. 3. 共通EDI_XML バインディング手順

共通EDI_BIE表のEXCEL表は次の手順で、XMLスキーマへ変換して実装する。

- ① ITベンダーは業務アプリのEDI情報項目を<付表1>相互連携性情報項目表を参照して共通EDI標準情報項目とマッピング
→中小企業共通EDI標準<付表3>共通EDIマッピング表を利用

- ② マッピングした情報項目を<付表2>メッセージ辞書・BIE 表から抽出し、構造化 XML スキーマを生成

→「BIE 表作成支援ツール」(つなぐ IT コンソーシアム Web サイトにて提供予定) を利用

「メッセージ作成支援ツール」は国連 CEFACCT 共通辞書(日本語版)を参照して構造化 XML スキーマを生成する。最新版の共通辞書(日本語版)は下記の SIPS の URL より入手できる。

<http://www.caos-a.co.jp/SIPS/itctools/registryApplication.html>

国連 CEFACCT の XML スキーマは「メッセージ作成支援ツール」で生成される構造化 XML スキーマとして取引プロセスごとに出力される。

生成される XML スキーマのファイル名は次のとおりである。

表3-1 中小企業共通 EDI 標準 ver.4 XML スキーマ名

取引メッセージ	XML スキーマファイル名
見積依頼メッセージ	SMEQuotation.xsd
見積回答メッセージ	SMEQuotationResponse.xsd
注文メッセージ	SMEOrder.xsd
注文回答メッセージ	SMEOrderResponse.xsd
出荷案内メッセージ	SMEDespatchAdvice.xsd
統合請求メッセージ	SMEConsolidatedInvoice.xsd
単一請求メッセージ	SMEInvoice.xsd
統合仕入明細メッセージ	SMEConsolidatedSelfInvoice.xsd
統合仕入明細回答メッセージ	SMEConsolidatedSelfInvoiceResponse.xsd
単一仕入明細メッセージ	SMESelfInvoice.xsd
単一仕入明細回答メッセージ	SMESelfInvoiceResponse.xsd
支払通知メッセージ	SMERemittanceAdvice.xsd
需要予測メッセージ	SMESchedulingDemandForecast.xsd
納入指示メッセージ	SMESchedulingSupplyInstruction.xsd

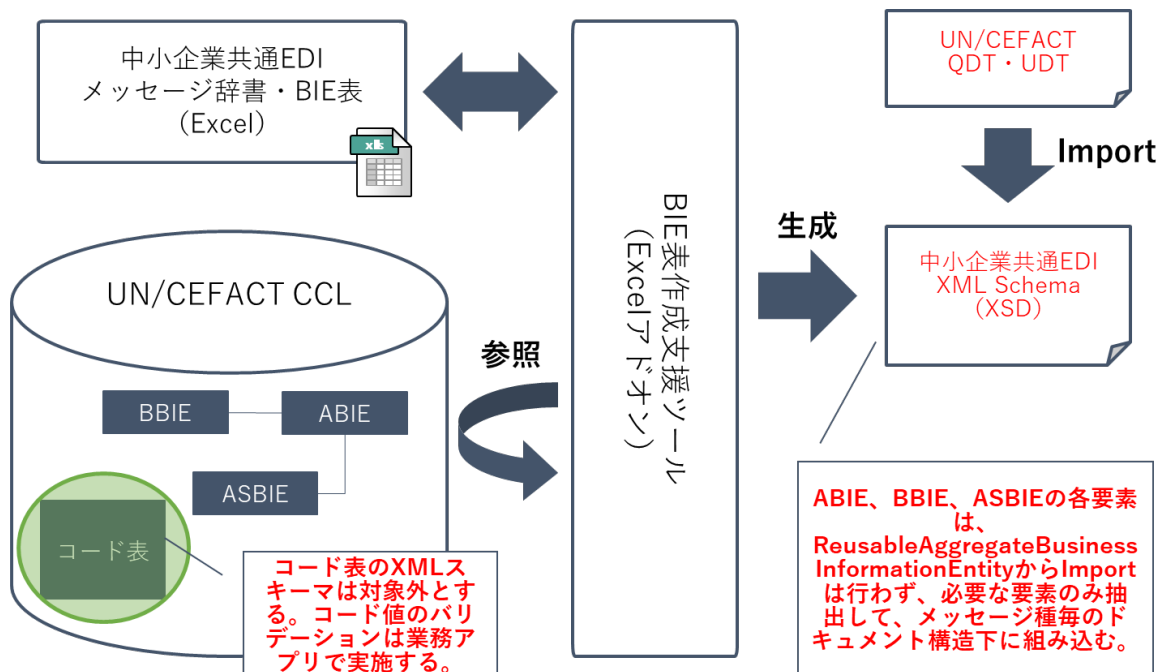
③ 構造化 XML スキーマを実装可能な XML ソースコードへ転換

→開発言語ごとに提供される XML ソースコード生成ツールを利用

「メッセージ作成支援ツール」で生成された構造化 XML スキーマを基に開発言語の提供する XML スキーマ・コンパイラ・ツール等を使用して、XML データバインディング可能なソースコードを生成する。

例として開発言語として Java を使用する場合は、Java Architecture for XML Binding (JAXB) ツールを使用して、xjc コマンドで XML スキーマから Java クラスを生成する。

参考のために BIE 表作成支援ツールを利用し XML スキーマを生成する手順を下図に示す。



UN/CEFACT_CCL：下記 URL から最新版共通辞書（日本語版）を入手

<http://www.caos-a.co.jp/SIPS/itctools/registryApplication.html>

中小企業共通 EDI メッセージ辞書・BIE 表 ver.4：下記 URL から入手

<https://www.edi.itc.or.jp/edi-ver-4>

図 3 - 1 XML スキーマの作成手順

3. 4. XMLスキーマの生成例

生成される XML スキーマは国連 CEFAC の規定に基づき名前空間として構成される。

生成した XML スキーマは下記の URL で入手できる。

<http://<準備中>>

名前空間の構成を注文メッセージ SMEOrder について下図に示す。また注文メッセージの SMEOrder.xsd の先頭部分を例示する。

中小企業共通 EDI の XML スキーマは次の構成で生成される。

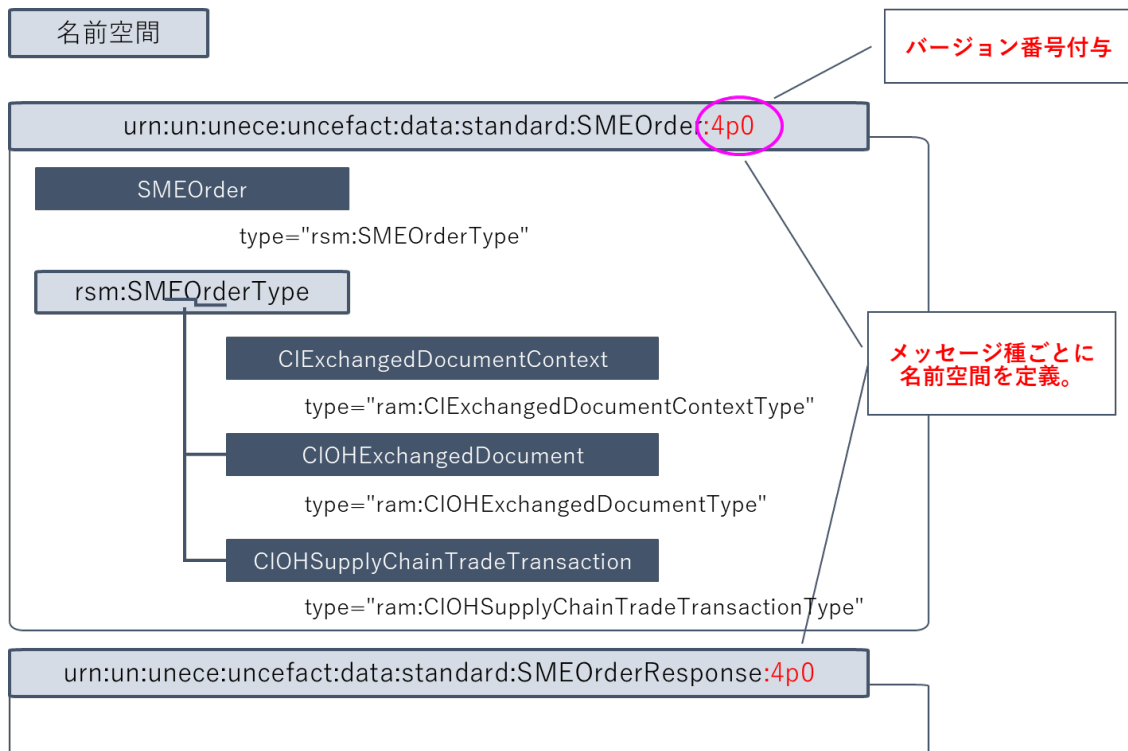


図3-2 XMLスキーマの構成（注文メッセージのXMLスキーマ名前空間を例示）

注文メッセージのXMLスキーマ SMEOrder.xsd の先頭部分を例示する。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
```

```
<!-- ===== -->
```

```
<!-- ===== SME Order Schema Module ===== -->
```

```

<!-- ===== -->

<!--
Schema agency:
Schema version:
Schema date:

-->

<xsd:schema xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
xmlns:rsm="urn:un:unece:uncefact:data:standard:SMEOrder:4p0"
xmlns:udt="urn:un:unece:uncefact:data:standard:UnqualifiedDataType:30"
targetNamespace="urn:un:unece:uncefact:data:standard:SMEOrder:4p0"
elementFormDefault="qualified"
attributeFormDefault="unqualified"
version="20220808132800">

<!--
=====
===== -->

<!-- ===== Imports ===== -->

<!--
=====
===== -->

<!--
=====
===== -->

<!-- ===== Import of Unqualified Data Type Schema Module ===== -->

<!--
=====
===== -->

<xsd:import namespace="urn:un:unece:uncefact:data:standard:UnqualifiedDataType:30"
schemaLocation="UnqualifiedDataType_30p0.xsd"/>

<!--

```

```

=====
===== -->

<!-- ===== Element Declarations ===== -->

<!--
=====
===== -->

<!-- ===== Root Element Declarations ===== -->

<!--
=====
===== -->

<!-- Global 型宣言 -->

<xsd:element name="SMEOrder" type="rsm:SMEOrderType" />

<!--
=====
===== -->

<!-- ===== Type Definition: SMEOrderType ===== -->

<!--
=====
===== -->

<xsd:complexType name="SMEOrderType">
  <xsd:sequence>
    <xsd:element name="CIExchangedDocumentContext"
type="rsm:CIExchangedDocumentContextType" minOccurs="1" >
      <!--UN01005479-->
    </xsd:element>
    <xsd:element name="CIOHExchangedDocument"
type="rsm:CIOHExchangedDocumentType" minOccurs="0" >
      <!--UN01006517-->
    </xsd:element>
    <xsd:element name="CIOHSupplyChainTradeTransaction"
type="rsm:CIOHSupplyChainTradeTransactionType" minOccurs="1" >

```



```

<!--UN01006589-->

</xsd:element>

</xsd:sequence>

</xsd:complexType>

```

3. 5. XML インスタンスの生成

XML フォーマットで共通 EDI プロバイダへ送信する場合や、PDF_A-3 フォーマットへ添付する場合などには、XML スキーマを実装したアプリケーションより EDI データを搭載した XML インスタンスを出力して利用する。

XML インスタンスのファイル名は次のとおりである。

表 3－2 中小企業共通 EDI 標準 ver.4 XML インスタンスファイル名

取引メッセージ	XML インスタンスファイル名
見積依頼メッセージ	SMEQuotation.xml
見積回答メッセージ	SMEQuotationResponse.xml
注文メッセージ	SMEOrder.xml
注文回答メッセージ	SMEOrderResponse.xml
出荷案内メッセージ	SMEDespatchAdvice.xml
統合請求メッセージ	SMEConsolidatedInvoice.xml
単一請求メッセージ	SMEInvoice.xml
統合仕入明細メッセージ	SMEConsolidatedSelfInvoice.xml
統合仕入明細回答メッセージ	SMEConsolidatedSelfInvoiceResponse.xml
単一仕入明細メッセージ	SMESelfInvoice.xml
単一仕入明細回答メッセージ	SMESelfInvoiceResponse.xml
支払通知メッセージ	SMERemittanceAdvice.xml
需要予測メッセージ	SMESchedulingDemandForecast.xml
納入指示メッセージ	SMESchedulingSupplyInstruction.xml

4. XML インスタンスのサンプルデータ

下記の帳票を国連 CEFACT_XML フォーマットに組み込んだ XML インスタンスサンプルデータは、**つなぐ IT コンソーシアム Web サイトにて提供予定。**

●注文書サンプル帳票

コト No. 0002 180-0012 東京都武蔵野市緑町3丁目10-30-20 ミトビル7F 株式会社 Pole 先方担当者様氏名 様 TEL03-1207-6020 FAX03-1207-6021	<h2 style="margin: 0;">注 文 書</h2>	No. 503 2022 年 5 月 20 日 納期: 2022/ 6/10 株式会社PCA商事 〒102-8171 東京都千代田区富士見1-2-21 PCAビル TEL:03-1111-1111 FAX:03-2222-2222 部門:東京 担当:井上 久司
--	-----------------------------------	---

注 文 No	品 番 ・ 品 名	入 数	箱 数	数 量 単 位	単 価	金 額	備 考	納 期
	(0001) ｸﾙｼｱｼｬﾝﾌﾟｰ さん髪	6	3	18 個	468	8,424	備考欄1---	6/10
	(0002) ｸﾙｼｱｼｬﾝﾌﾟｰ LALA	6	2	12 個	512	6,144	備考欄2---	6/10
【合 計】						14,568		

摘要: 摘要名----->

直送先: 0001

145-0061
 東京都大田区石川町123-456
 さくら商店
 納入先担当者様氏名 様
 TEL03-4564-2352 FAX03-4564-2353

●請求書サンプル帳票

お客様No. 0001 812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前1丁目-12-23 福岡センタービル10F 五越株式会社 佐藤 勇作 様 TEL: 092-401-4080 FAX:092-401-4081	<h2 style="margin: 0;">請 求 書</h2>	No. 1- 1 22 年 5 月 31 日 締切分 (30) 株式会社PCA商事 〒102-8171 東京都千代田区富士見1-2-21 TEL:03-1111-1111 FAX:03-2222-2222 【振込先】 みずほ銀行 東京〇〇支店 (普) 5555
--	-----------------------------------	--

登録番号: T1234567890123

前 回 御 請 求 額	御 入 金 額	調 整 額	繰 越 金 額	御 買 上 額	内 消 費 税 等	今 回 御 請 求 額
4,327,258	0	0	4,327,258	8,614	767	¥4,335,872

伝 票 日 付	伝票No.	品 名	数 量	単 価	金 額	税率
22/ 5/23	5526	ｸﾙｼｱｼｬﾝﾌﾟｰ さん髪	5 個	637	3,185	10.0%
		ｸﾙｼｱｼｬﾝﾌﾟｰ LALA	6 個	637	3,822	10.0%
		信州冷凍うどん 3人前	3 袋	280	840	8.0%※
		消費税等			767	
		【合 計】			8,614	
		(内消費税等)			767	
		税率	課税対象額	消費税等		
		10.0	¥7,007	¥700		
		8.0%※	¥840	¥67		

注) ※印は軽減税率(8%)適用商品

● サンプル注文書のマッピング

中小企業共通EDIマッピング表＜注文情報モデル・共通コア＞

ver.4_r0_20220901

相互連携性情報項目表 注文情報モデル						標準ver.4 マッピング	利用帳票の情報項目マッピング						
行番号	ヘッダ 明細	ID	項目名	項目定義	繰返し	中小 共通コア	利用	項目名	記入例				
1	ヘッダ		注文書	発注者が受注者に交付する注文文書（メッセージ）。	—								
2	ヘッダ	CL-2	取引プロセス設定クラス	取引プロセスに関する情報のクラス	1..1								
3	ヘッダ	ID-7	取引プロセス識別子	取引プロセスの識別子(ID)	1..1	△							
4	ヘッダ	OCL-1	注文文書クラス	注文文書全体に関する情報からなるクラス。	0..1								
5	ヘッダ	OID-1	注文書番号	発注者が注文書特定するために付番する管理番号。	1..1	○	○	No.	502				
6	ヘッダ	OID-2	注文書名	発注者が注文書に付与した文書名称	0..1	*	○		注文書				
7	ヘッダ	OID-3	注文書文書タイプコード	この文書が注文書であることを識別するコード	0..1	*							
8	ヘッダ	OID-4	注文書発効日	発注者が注文を行った日付、または注文書の書面上の発行日付。	1..1	○	○		2022 年 5 月 20 日				
9	ヘッダ	OID-5	注文目的コード	発注者が注文の目的（新規、変更、取消、打ち切り）を管理するために付番したコード	0..1	●							
10	ヘッダ	OID-6	注文書改定日	注文書を改訂した日付	0..1	*							
11	ヘッダ	OID-7	注文履歴番号	注文書の変更履歴を管理する番号。	0..1	●							
12	ヘッダ	OID-8	注文状態コード	注文の状態（確定／仮発注／内示など）を管理するために発注者が附番したコード	0..1	*							
13	ヘッダ	OID-9	注文書文書サブタイプコード	この文書の文書サブタイプを指定するコード	0..1	*							
14	ヘッダ	OCL-2	注文注釈ヘッダクラス	ヘッダ注釈を記述するためのクラス	0..n								
15	ヘッダ	OID-10	注文注釈表題 n	注釈内容の表題を示す。 デフォルト（注文注釈識別子＝1）＝備考	0..1	*							
16	ヘッダ	OID-11	注文注釈内容 n	注釈表題毎の内容情報を入力するフリースペース。 デフォルト（注文注釈識別子＝1）＝備考の内容	0..1	*	○	摘要	摘要名_____				
17	ヘッダ	OID-12	注文注釈識別子	注釈の識別番号。共通EDIプロバイダがセット デフォルト＝1	0..1	△							
18	ヘッダ	OCL-4	受注者クラス	受注者に関する情報からなるクラス。	1..1								
19	ヘッダ	OID-21	受注者コード	注文を受ける企業を表す企業コード。	1..1	(○)							
20	ヘッダ	OID-22	受注者国際企業コード	注文を受ける企業を表す国際企業コード。中小企業共通EDIでは法人番号を利用	0..1	*							
21	ヘッダ	OID-23	受注者名称	注文を受ける企業/工場・事業所・事業部門等を表す名称。	1..1	(○)	○		株式会社PCA商事				
22	ヘッダ	OID-24	請求事業者登録番号	登録された請求者の適格請求書発行事業者番号	0..1	*							
23	ヘッダ	OCL-5	受注者連絡先クラス	受注者連絡先に関する情報からなるクラス。	0..1								
24	ヘッダ	OID-25	受注者部門コード	受注者の受注部門を表すコード	0..1	*							
25	ヘッダ	OID-26	受注者担当名	受注者の受注担当者を表す名称	0..1	*	○		井上 久司				
26	ヘッダ	OID-27	受注者部門名	受注者の受注部門を表す名称	0..1	*	○		東京				

27	ヘッダ	OID-28	受注者電話番号	受注者の電話番号。	0..1	*	○		03-1111-1111				
28	ヘッダ	OID-29	受注者FAX番号	受注者のFAX番号	0..1	*	△		03-2222-2222				
29	ヘッダ	OID-30	受注者メールアドレス	受注者の電子メールアドレス。	0..1	*							
30	ヘッダ	OCL-6	受注者住所クラス	受注者住所に関する情報からなるクラス。	0..1								
31	ヘッダ	OID-31	受注者郵便番号	受注者の郵便番号。	0..1	*	○		102-8171				
32	ヘッダ	OID-32	受注者住所	受注者の住所。	0..1	*	○		東京都千代田区富士見1-2-21 PCAビル				
33	ヘッダ	OCL-7	発注者クラス	発注者に関する情報からなるクラス。	0..1								
34	ヘッダ	OID-33	発注者コード	注文を行う企業/工場・事業所・事業部門等を表すコード	1..1	(○)	○	コードNo	0002				
35	ヘッダ	OID-34	発注者国際企業コード	注文を行う企業を表す国際企業コード。中小企業共通EDIでは法人番号を利用	0..1	*							
36	ヘッダ	OID-35	発注者名称	注文を行う企業/工場・事業所・事業部門等を表す名称。	1..1	(○)	○		株式会社 Pole				
37	ヘッダ	OCL-8	発注者連絡先クラス	発注者連絡先に関する情報からなるクラス。	0..1								
38	ヘッダ	OID-36	発注者部門コード	発注者の発注部門を表すコード	0..1	*							
39	ヘッダ	OID-37	発注者担当名	発注者の発注担当者の名称	0..1	*	○	先方担当者様氏名	先方担当者様氏名				
40	ヘッダ	OID-38	発注者部門名	発注者の発注部門を表す名称	0..1	*							
41	ヘッダ	OID-39	発注者電話番号	発注者の電話番号。	0..1	*	○		03-1207-6020				
42	ヘッダ	OID-40	発注者FAX番号	発注者のFAX番号。	0..1	*	○		03-1207-6021				
43	ヘッダ	OID-41	発注者メールアドレス	発注者の電子メールアドレス。	0..1	*							
44	ヘッダ	OCL-9	発注者住所クラス	発注者住所に関する情報からなるクラス。	0..1								
45	ヘッダ	OID-42	発注者郵便番号	発注者の郵便番号。	0..1	*	○		180-1112				
46	ヘッダ	OID-43	発注者住所	発注者の住所。	0..1	*	○		東京都武蔵野市緑町3丁目10-30-20 ミドリビル7F				
47	ヘッダ	OCL-12	関係企業クラス	注文に関係する企業（エンドユーザー、代理店など）のクラス	0..n								
48	ヘッダ	OID-56	関係企業コード	商社経由取引などで注文に関係する企業（エンドユーザー、代理店など）を示すコード	0..1	*							
49	ヘッダ	OID-57	関係企業国際企業コード	関係企業を表す国際企業コード。中小企業共通EDIでは法人番号を利用	0..1	*							
50	ヘッダ	OID-58	関係企業名	商社経由取引などで注文に関係する企業（エンドユーザー、代理店など）の名称	0..1	*							
51	ヘッダ	OID-59	関係企業役割コード	関係企業の役割を特定するコード (付表3参照)	0..1	*							
52	ヘッダ	OCL-13	関係企業連絡先クラス	関係企業の連絡先に関する情報からなるクラス。	0..1								
53	ヘッダ	OID-60	関係企業部門コード	関係企業の担当部門コード	0..1	*							
54	ヘッダ	OID-61	関係企業担当者名	関係企業の担当者の氏名	0..1	*							
55	ヘッダ	OID-62	関係企業部門名	関係企業の担当部門名	0..1	*							
56	ヘッダ	OCL-17	納入先ヘッダクラス	納入先企業に関する情報からなるヘッダクラス。	-								
57	ヘッダ	OID-69	納入先コード	納入先の企業/工場・事業所・事業部門等を表すコード	0..1	*	○	直送先	0001				
58	ヘッダ	OID-70	納入先国際企業コード	納入先企業を表す国際企業コード。中小企業共通EDIでは法人番号を利用	0..1	*							
59	ヘッダ	OID-71	納入先名称	納入先の企業/工場・事業所・事業部門等の名称	0..1	*	○		さくら商店				

[illegible]

98	明細行	OCL-27	注文明細行クラス	注文の明細行に関する情報からなるクラス。	0..n						
99	明細行	OID-103	注文明細行番号	複数明細発注の行番号。明細発注を特定するためには注文書番号との複合キーで特定する。	1..1	○	△		共通EDIプロバイダが補完入力	△	共通EDIプロバイダが補完入力
100	明細行	OID-104	注文明細状態コード	発注者が注文明細の目的（新規、変更、取消、打ち切り）を管理するために付番したコード	0..1	*					
101	明細行	OID-105	注文明細変更理由コード	注文明細毎の注文変更の内容を示すコード。（納期・単価・数量を変更）	0..1	*					
102	明細行	OID-106	注文明細番号	複数明細発注の場合に明細毎の発注を特定するために付与した番号。	0..1	*					
103	明細行	OID-107	注文明細類型コード	注文書明細の注文類型（一般品、特注品など）を管理するために発注者が付番したコード	0..1	*					
104	明細行	OCL-28	注文明細注釈クラス	明細注釈を記述するクラス	0..n						
105	明細行	OID-108	注文明細注釈表題	明細注釈内容の表題を示す。 デフォルト（注文注釈識別子=1）＝備考	0..1	*					
106	明細行	OID-109	注文明細注釈内容	明細注釈表題毎の内容情報を入力するフリースペース。 デフォルト（注文注釈識別子=1）＝備考の内容	0..1	*					
107	明細行	OID-110	注文明細注釈識別子	明細注釈の識別番号。共通EDIプロバイダがセット デフォルト＝1	0..1	*					
108	明細行	OCL-30	（参照）付加文書明細クラス	参照する文書に関する情報のクラス	0..1						
109	明細行	OID-115	エンドユーザー注文番号	この明細行が参照する最終得意先が注文に付与した	0..1	*					
110	明細行	OCL-31	注文価格クラス	注文価格に関する情報からなるクラス。	1..1						
111	明細行	OID-116	単価コード	単価の種別を示すコード	0..1	*					
112	明細行	OID-117	注文単価	発注者が提示した明細発注品の1単位あたりの取引単価。税込み、税抜きの識別はヘッダ部の「UN01013096：税計算方式」で指定（指定がない場合は税抜き）。	1..1	○	○	単価	486	単価	512
113	明細行	OID-118	単価基準数量	●定貨品目の場合： 単価基準数量＝1（デフォルト）" ●不定貨品目の場合： 単価基準数量＝単価の基準となる重量・容量 ●ハイブリッド品目の場合： 単価基準数量＝1	0..1	*					
114	明細行	OID-119	単価基準数量単位コード	単価基準数量の数量単位コード名	0..1	*	△			<単位>	<個>
115	明細行	OCL-32	納入条件クラス	納入条件に関するクラス。	0..1						
116	明細行	OID-120	納入条件	納入条件についての説明	0..1	*					
117	明細行	OCL-33	注文明細配送クラス	注文明細行の配送に関する情報からなるクラス。	1..1						
118	明細行	OID-121	注文数量	発注者が提示した明細注文品のバラ数量、またはセット数量。バラ数量注文とセット数量注文の区分は数量単位コードの指定で行い、数量の属性として組み込む。 流通業取引では利用せず、「セット数量」「バラ数量」情報項目を利用する	1..1	○					

119	明細行	OID-122	セット単位数量(入り数)	●定貨品目（個数でカウントできる品目）の数量単位指定が「セット」の場合：1セット当たりのバラ数量 ●定貨品目の数量単位指定が「個」の場合：利用しない ●不定貨品目（個数でカウントできない品目）の数量単位指定の場合：利用しない。 ●ハイブリッド品目（数量指定は定貨品目、金額計算は不定貨品目）の場合：指定した定貨品目数量単位の1単位当たりの重量等	0..1	●	○	入数	6	入数	6
120	明細行	OID-123	セット数量	この明細行品目がセットで注文する場合のセット数量 流通業の固有仕様。	0..1	*	○	箱数	3	箱数	2
121	明細行	OID-124	バラ数量	この明細行品目が単体（バラ）で注文する場合の数	0..1	*	○	数量 = 箱数 × 入数 <金額計算用>	18	数量 = 箱数 × 入数 <金額計算用>	12
122	明細行	OID-125	数量単位コード	数量単位のコード名	0..1	●	○	単位	個	単位	個
123	明細行	OCL-38	要求納期クラス	納入要求に関する情報からなるクラス	1..1						
124	明細行	OID-137	要求納入日	発注者から受注者に提示した、明細発注品の納入期日、または納入希望日。	1..1	○	○	納期	6月10日	○	納期 6月10日
125	明細行	OID-138	配送タイプコード	配送タイプを指定するコード	0..1	*					
126	明細行	OID-139	要求納入時間	発注者から受注者に提示した、明細発注品の納入希望時間。	0..1	*					
127	明細行	OCL-39	納入場所クラス	納入場所に関する情報からなるクラス。	0..1						
128	明細行	OID-140	納入場所コード	納入場所または受渡場所を示すコード。	0..1	*					
129	明細行	OID-141	納入場所名称	納入場所または受渡場所の名称。	0..1	*					
130	明細行	OCL-40	明細行税クラス	明細行の税に関する情報のクラス	0..1						
131	明細行	OID-142	税タイプコード	税の種類(消費税、関税等)を識別するコード	0..1	*					
132	明細行	OID-143	課税対象明細金額（税抜き）	税抜き消費税課税対象金額（＝単価(税抜き)×数量）	0..1	*					
133	明細行	OID-144	明細行課税分類コード	消費税の計算属性(標準税率、軽減税率など)を識別するための識別コード。	0..1	○					
134	明細行	OID-145	課税分類名	消費税の計算属性(標準税率、軽減税率など)を識別するための分類名	0..1	*					
135	明細行	OID-146	明細行税率	税区分に対応する消費税率	0..1	○					
136	明細行	OID-147	課税対象明細金額（税込み）	税込み消費税課税対象金額（＝単価(税込み)×数量）	0..1	*					
137	明細行	OCL-41	注文明細金額集計クラス	注文明細行の合計金額のクラス	0..1						
138	明細行	OID-148	注文明細金額（税抜き）	注文明細の注文金額(税抜き)。（単価×数量）	0..1	*	○	金額	8424	○	金額 6144
139	明細行	OID-149	注文明細金額（税込み）	明細発注品の注文明細金額(税込み)。 (単価(税込み)×数量)	0..1	*					
140	明細行	OCL-42	取引品目クラス	注文明細行の取引品目に関する情報からなるクラス。	1..1						
141	明細行	OID-150	品目コード	発注品目をユニークに識別するために付加したコード	0..1	*	○	品番	(0001)	○	品番 (0002)

142	明細行	OID-151	グローバル品目コード	GTIN、JANコードなどの国際的に登録された品目コード	0..1	*						
143	明細行	OID-152	受注者品名コード	受注者が品目を特定するために付与したコード	0..1	*						
144	明細行	OID-153	発注者品名コード	発注者が品目を特定するために付与したコード	0..1	*						
145	明細行	OID-154	メーカー品名コード	品目を特定するために製造者が付与したコード	0..1	*						
146	明細行	OID-155	品目名	発注品目の品名。	0..1	*	○	品名	ｸﾙｼｱｼｬﾝﾌﾟｰさん髪	○	品名	ｸﾙｼｱｼｬﾝﾌﾟｰ LALA
147	明細行	OID-156	品目摘要	この取引品目を文字で説明したもの	0..1	○	○	備考	備考欄 1	○	備考	備考欄 2
148	明細行	OID-157	品目タイプコード	品目のタイプ（定賞品目、不定賞品目、ハイブリッド品目、実測不定賞品目、実測ハイブリッド品目）を識別するコード。デフォルトは定賞品目	0..1	●						
149	明細行	OCL-49	梱包クラス	物流梱包に関する情報からなるクラス	0..1							
150	明細行	OID-177	物流物流梱包単位個数	物流梱包単位の数量	0..1	*						
151	明細行	OID-178	梱包数量単位コード	梱包数量の単位コード	0..1	*						
152	明細行	OID-179	荷姿コード	納入品のパッケージの梱包方法を示すコード。	0..1	*						

● サンプル請求書のマッピング

中小企業共通EDIマッピング表＜請求情報モデル・共通コア＞

ver.4_r0_20220901

相互連携性情報項目表 請求情報モデル（共通コア）					標準ver.4 マッピング	利用帳票の情報項目マッピング													
行番号	ヘッダ 明細文書 明細行	ID	項目名	項目定義	繰返し	区分1 共通コア 請求	利用	項目名	記入例										
1	ヘッダ		統合請求書	受注者が発注者に交付する月締め統合請求文書（メッセージ）	—														
2	ヘッダ	CL2	取引プロセス設定クラス	取引プロセスに関する情報のクラス	1..1														
3	ヘッダ	ID3	取引プロセス識別子	取引プロセスの識別子(ID) 共通EDIプロバイダがプロセスをセットする	1..1	△													
4	ヘッダ	ICL1	インボイス文書クラス	インボイス文書に関する情報項目のクラス	1..1														
5	ヘッダ	IID1	インボイス文書番号	インボイス文書を識別する文書番号または文書文字列	1..1	○	○	伝票No	5526										
6	ヘッダ	IID2	インボイス文書名	インボイス文書の文書名称	0..1	*	○		請求書										
7	ヘッダ	IID3	インボイス文書タイプコード	インボイス文書のタイプを識別するコード デフォルトは「合算請求書パターン1」	1..1	●													
8	ヘッダ	IID4	インボイス文書発効日	インボイス文書の発行日付、またはインボイス文書の書面上の発行日付。	1..1	○	○	伝票日付	2022/5/23										
9	ヘッダ	IID5	インボイス文書履歴番号	インボイス文書の変更履歴を管理する番号	0..1	●													
10	ヘッダ	IID7	インボイス文書サブタイプコード	地域固有の文書のタイプを識別するコード デフォルトは「合算請求書パターン1」	1..1	●													
11	ヘッダ	ICL2	インボイス文書注釈クラス	インボイス文書の注釈を記述するためのクラス	0..n														
12	ヘッダ	IID8	インボイス文書注釈表題	注釈内容の表題を示す。	0..1	*													
13	ヘッダ	IID9	インボイス文書注釈内容	注釈項目毎の内容情報を入力するフリースペース。	0..1	*	○	摘要	摘要名_____										
14	ヘッダ	IID10	インボイス文書注釈識別子	注釈の識別番号	0..1	△													
15	ヘッダ	ICL5	受注者クラス	受注者に関する情報からなるクラス。	1..1														
16	ヘッダ	IID23	受注者コード	注文を受ける企業/工場・事業所・事業部門等を表すコード。デフォルトはデータなし。	1..1	*													
17	ヘッダ	IID25	受注者名称	注文を受ける企業/工場・事業所・事業部門等を表す名称。 適格請求書、または区分記載請求書を発行する事業者名。 国税庁へ登録された適格請求書発行事業者登録番号（区分記載請求書発行者についてはなし）	1..1	◎	○		株式会社PCA商事										
18	ヘッダ	IID26	適格請求書発行事業者登録番号	適格請求書発行者についてはなし） T1234567890123	1..1	◎	○	登録番号	T1234567890123										

[illegible]

[illegible]

68	ヘッダ	ICL47	明細文書参照注文書クラス	明細文書が参照する注文書に関する情報からなるクラス。	0..1													
69	ヘッダ	IID208	(参照) 注文書番号	この明細文書が参照する注文書に記載の文書番号。注文履歴番号(枝番)を利用している場合は「注文番号+注文履歴番号」に変換する	0..1	*												
70	ヘッダ	IID209	(参照) 注文書履歴番号	この明細文書が参照する注文書の変更履歴を管理する番号。	0..1	*												
71	明細行	ICL64	明細行クラス	明細行に関する情報からなるクラス	1..n													
72	明細行	IID272	明細行番号	この文書の明細行に関する情報を特定するために付与した行番号。明細行をユニークに識別するために付番する場合は文	1..1	△	△			1	△			2	△			3
73	明細行	IID273	明細行類型コード	この明細行の取引類型（資産譲渡、返金・追加請求、調整等）を識別するコード。	0..1	●												
74	明細行	ICL66	明細行参照注文書クラス	明細行の参照注文書クラス	0..1													
75	明細行	IID277	(明細行参照) 注文書番号	この明細行が参照する注文書に記載の文書番号	0..1	*												
76	明細行	IID278	(明細行参照) 注文書明細行番号	この明細行が参照する注文書に記載の明細行番号	0..1	*												
77	明細行	IID279	(明細行参照) 注文書履歴番号	この明細行が参照する注文書の変更履歴を管理する番号。	0..1	*												
78	明細行	ICL68	契約単価クラス	明細行の契約単価に関する情報からなるクラス。	1..1													
79	明細行	IID288	契約単価	発注者と受注者が合意した明細発注品の単価。単価基準数量と単価基準数量単位の指定に従う。	1..1	○	○	単価		637	○	単価		637	○	単価		280
80	明細行	IID290	単価基準数量単位コード	単価基準数量単位のコード名		▲												
81	明細行	ICL69	明細行納入クラス	明細行の納入に関する情報からなるクラス	1..1													
82	明細行	IID293	セット単位数量(入り数)	●定賞品目の数量単位指定が「セット」の場合：1セット当たりのバラ数量。 ●定賞品目の数量単位指定が「個」の場合：利用しない ●不定賞品目の数量単位指定の場合：利用しない。 ●ハイブリッド品目の場合：指定した定賞品目数量単位の1単位当たりの重量等	0..1	●												
83	明細行	IID294	請求数量	この明細行品目のバラ請求数量、またはセット請求数量。バラ、セットの区分は数量単位コードで指定する流通業取引では利用せず、「セット数量」「バラ数量」情報項目を利用する	1..1	○	○	数量		5	○	数量		6	○	数量		3
84	明細行	IID295	数量単位コード	数量単位コード名		○	○		個			○		個	○		袋	
85	明細行	ICL71	明細行税クラス	明細行の税に関する情報に関するクラス	1..1													
86	明細行	IID298	明細行課税分類譲渡資産金額(税抜)	この明細行の課税分類（明細行課税分類コード/税率）毎のこの明細行の消費税の課税分類（標準税率、軽減税率、不課税、非課税、免税等）を識別するコード	1..1	(○)	○	金額		3,185	○	金額		3,822	○	金額		840
87	明細行	IID299	明細行課税分類コード	この明細行の消費税の課税分類（標準税率、軽減税率、不課税、非課税、免税等）を識別するコード	1..1	△												
88	明細行	IID301	明細行税率	この明細行の課税分類区分を識別するため、明細行課税分類	1..1	○	○	税率		10.0	○	税率		10.0	○	税率		8.0
89	明細行	IID302	明細行課税分類譲渡資産金額(税込み)	この明細行の課税分類毎の税額を含む譲渡資産金額	0..1	(○)												
90	明細行	ICL75	明細行取引期間クラス	明細行の取引期間に関する情報からなるクラス	1..1													
91	明細行	IID318	明細行取引開始日	この明細行の取引開始日	1..1	◎												
92	明細行	IID319	明細行取引終了日	この明細行の取引終了日	1..1	●												
93	明細行	ICL76	取引品目クラス	取引品目に関する情報からなるクラス。	1..1													
94	明細行	IID321	品名	この取引の品名。	0..1	●	○	品名	ｸﾙｼﾞｱ ｼｬﾝﾌﾟ - さん髪			○	品名	ｸﾙｼﾞｱ ｼｬﾝﾌﾟ - LALA	○	品名	信州冷凍うどん 3人前	
95	明細行	IID322	品目摘要	この取引品目内容を文字で説明したもの	1..1	◎												